



気仙沼大学ネットワーク活動報告会の聴講者を募集します

■震災以降、本市内各地で多くの大学がまちづくり支援や防災集団移転促進事業団地、環境調査、教育などの復興支援活動を行っており、平成27年度から、その活動を報告する場として、気仙沼大学ネットワークの活動報告会を実施してきました。

■今回、第3回目の活動報告会を、下記のとおり開催しますので、みなさんのご参加をお待ちしております。

■報告者（敬称略）

No.	所属	報告者名	No.	所属	報告者名
1	早稲田大学	阿部俊彦	5	慶應義塾大学	ヴィルヘルム・ヨハネス
2	工学院大学	倉田直道 磯田芳枝	6	早稲田大学	許海妍
3	首都大学東京 建築家 杏林大学	市古太郎 連健夫 大木幸子	7	早稲田大学	土方正夫 藤原整
4	慶應義塾大学 鹿島建設	一ノ瀬友博 板川暢			

※各大学の支援先であるまちづくり協議会、商店街等方々も報告に参加を予定しています。

- 日 時 平成 29 年 11 月 19 日(日)午後2時～午後4時00分
- 会 場 □ship(スクエアシップ) (気仙沼市魚市場前 7-13 気仙沼海の市2階)
- 一般聴講 50 名程度(申込み不要)
- 主 催 気仙沼大学ネットワーク
- 共 催 気仙沼市
- 問い合わせ先 気仙沼大学ネットワーク事務局
(担当:早稲田大学先端社会科学研究所 招聘研究員 藤原)
電話番号 090-8949-7772
気仙沼市震災復興・企画部 地域づくり推進課
電話番号 0226-22-6600 内線 336

【経過及び趣旨】

震災以降、本市内各地で多くの大学がまちづくり支援や防災集団移転促進事業団地、環境調査、教育などの復興支援活動を行っており、そうした各大学の活動情報の共有を行い活動の重複を回避するとともに活動情報を発信するため、平成24年2月27日に「気仙沼大学ネットワーク」が発足しました。

発足当時の登録状況は大学・企業等 42 団体であり、大学間の情報共有を行うプラットフォームの場として機能するとともに、各大学が市内のどの地域で活動しているのか支援プロジェクトリストを作成し一覧化を図っています。

現在、気仙沼大学ネットワークには 46 団体が登録しており、これまで活動を総括するため活動報告会を開催します。

○各報告者の報告概要

No.	所属	報告者名	報告概要
1	早稲田大学	阿部俊彦	内湾地区のまちづくり協議会のコーディネーターとして、ウォーターフロントの計画、施設設計に関わるとともに、スローシティ施設が来春にオープン予定である内湾地区を、観光の拠点として再生するためのコンテンツをまちづくり会社（気仙沼地域開発）で検討しており、そのサポート活動と今後の課題について報告。
2	工学院大学	倉田直道 磯田芳枝	鹿折地区のかもめ通り商店街の再建に至るまでの支援の報告と鹿折まちづくり協議会取り組みに対する支援の報告。
3	首都大学東京 建築家 杏林大学	市古太郎 連健夫 大木幸子	「寄りそうプランニング」として、階上地区での2地区の防災集団移転事業による住まいと生活再建のお手伝いから学んだことについての報告。
4	慶應義塾大学 鹿島建設	一ノ瀬友博 板川暢	2011年12月から気仙沼市舞根地区で、当初は高台移転の支援を行ってきたが、既に移転はほぼ終了し、高台移転から災害後の地域づくりに復興のステージが変わった。また、同時に津波被災地の自然環境のモニタリングを行ってきた。これらの活動の成果を報告。
5	慶應義塾大学	ヴィルヘルム・ヨハネス	牡鹿半島における人口流動と生業の再建。東日本大震災による被害と再建へ向けた課題は三陸の津々浦々において異なる。三陸南部の牡鹿半島の表浜（西側）と裏浜（東側）の比較を通して、地元の水産業が震災後にどのような再建を果たしたかを人口流動や漁業制度通を通して報告。
6	早稲田大学	許海妍	2016年に実施された気仙沼市の市民団体の復興活動の振り返りへのヒアリング調査の結果に基づいて、気仙沼市のレジリエンスのシステムや復興活動における各主体の関係についての報告。
7	早稲田大学	土方正夫 藤原整	2012年9月以来、階上地区における復興まちづくり活動を支援し、2013年8月からは、新たに立ち上がったまちづくり協議会のアドバイザーとして、計画策定とその後のまちづくり活動を見守り続けている。今年10月には、2014年に策定したまちづくり計画書の全面的な見直しを行い、市へ再提言する予定であり、今回はその中身についての報告。

※敬称略